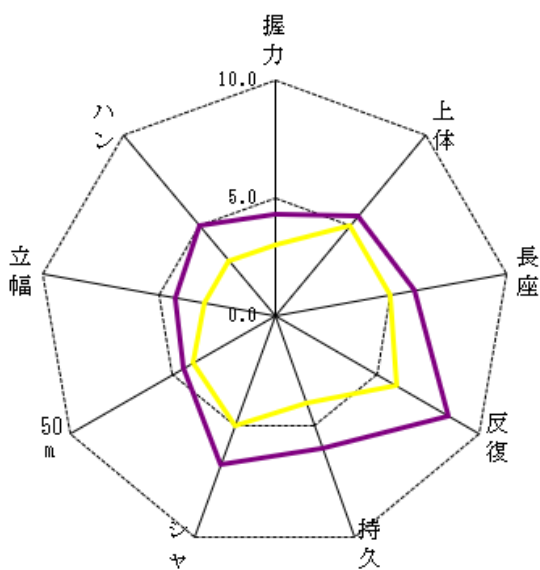


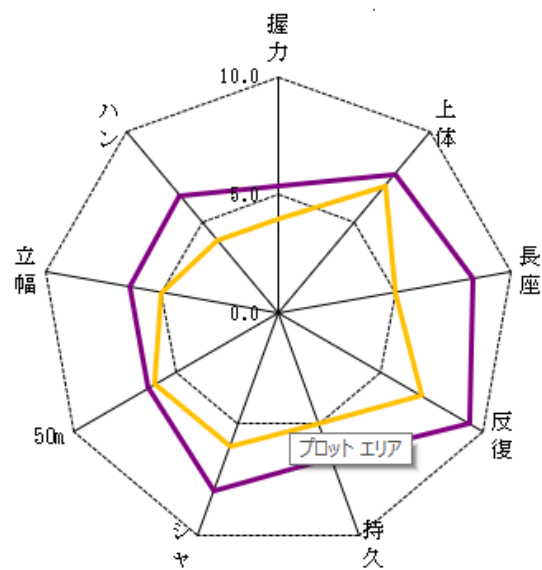
令和4年度新体力テストについて

全国平均 
 自校平均 

【1年生男子】



【1年生女子】



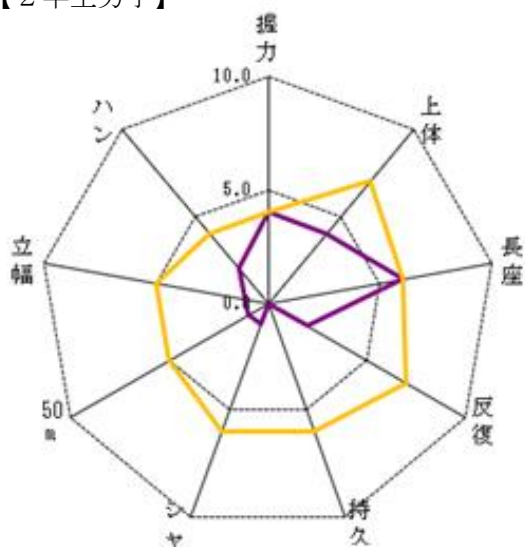
【分析】

- ・男子は全ての項目において、全国平均を上回っている。なかでも、反復横跳び、持久走が全国平均を大幅に上回っている。小学校での基礎体力づくり、身体づくりの成果が中学校でも現れていると考えられる。
- ・女子も全ての項目において、全国平均を上回っている。なかでも、反復横跳び、シャトルラン、長座体前屈が全国平均を大幅に上回っている。小学校での基礎体力づくり、身体づくりの成果が中学校でも現れていると考えられる。

【課題】

- ・小中連携による取組を継続する。
- ・男女ともに、握力と50m走の向上を図る。

【2年生男子】



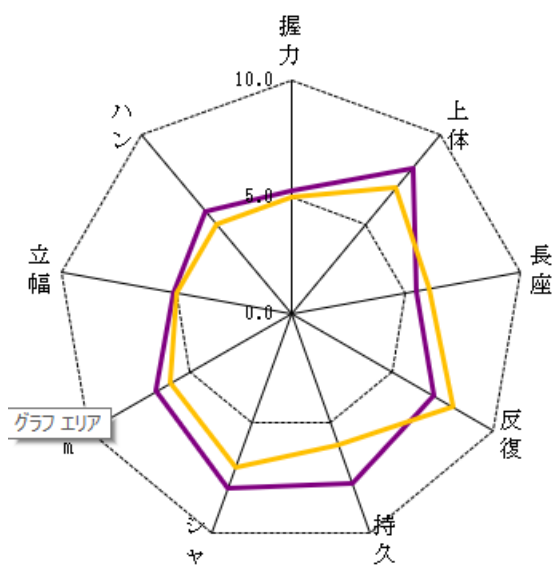
【分析】

- ・握力および長座体前屈は全国平均に達している。
- ・他の項目については大幅に全国平均を下回っている。

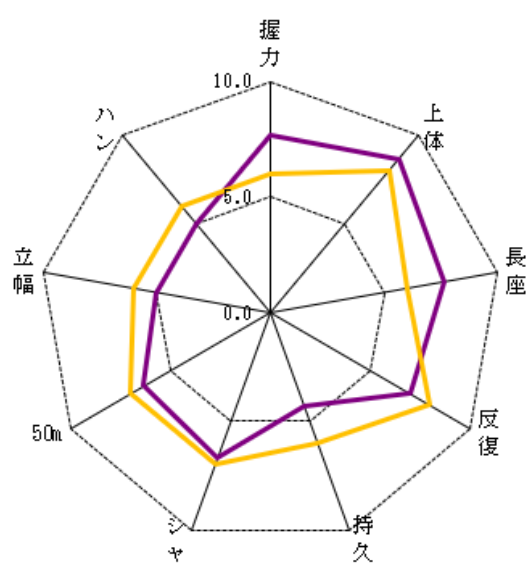
【課題】

- ・「走る」「跳ぶ」「動く」「投げる」といった基本的な運動能力の向上が求められる。【分析】

【3年生男子】



【3年生女子】



【分析】

- ・男子はほぼ全ての項目において、全国平均を上回っている。昨年の調査と比較して、全国

平均との差が開いていることから、全体的に高い運動能力が身につけており、身体能力の向上が見られたと考えられる。その一方で、長座体前屈と、反復横跳びが、全国平均をやや下回っている。

- ・女子は、握力、上体起こしが、長座体前屈が全国平均を上回っている。昨年との調査と比較して、全国平均との差が開いていることから、得意な運動やこれまでに培ってきた身体能力の向上が見られた。その他の項目は、全国平均を下回っているものの、昨年と比較して、全国平均に近づいており、苦手な種目や不得手な運動にも、意欲的に取り組み、克服しようとしていることが分かる。

【課題】

- ・男子は、瞬発力や柔軟性の向上を意識して、体育の授業や日常の身体づくりを進める必要がある。
- ・女子は、特に持久力に課題があり、心肺機能の向上と、遅筋繊維を増強する運動に意識的に取り組む必要が「ある」。

【改善方策】

- ①体育科教員を中心として全学年で授業改善を図り、更に、運動に対する関心・意欲を高め、達成感を味わえるような授業を構築する。
- ②生徒の状況（各学年ごと）を把握するとともに、体育的行事とカリキュラムとの連携強化、部活動の充実により、運動に親しむ場を提供する。
- ③生徒の運動に対する意識や習慣の改善を推し進めるとともに、体育授業や部活動を含め、家庭と連携してバランスのとれた体力向上に努めていく。
- ④縄跳び、筋力・柔軟性・敏捷性・スピードに特化したプログラムなど、体づくり（体幹）運動を取り入れていく。
- ⑤体育授業開始時に、個々の生徒が目標やそのときの身体状況に応じて、テーマや取り組むことを決め運動する時間をつくり、主体的に選択して運動する習慣を身につけさせる。
- ⑥保体常任委員会が計画・運営し、体育館使用に係わるルールを全校生徒で確認し、職員の共通理解や管理下のもとで、登校後から、体育館やグラウンド等活用して、生徒が主体的に運動を選択して行える環境を整えている。
- ⑦小中連携による取組を継続するとともに、小学校高学年から中学校まで系統性をもたせたカリキュラム編成を行う。